

# なぜいま、社会貢献なのか？

text by Kentaro Matsui

江戸時代、仕事には「稼ぎ」と「務め」があると考えられていました。稼ぎは賃金労働で、務めは共同体を成り立たせるための労働、今でいう社会貢献活動です。稼ぎがあるだけではダメで、務めを果たしてこそ一人前とされていたのです。それがいつしか、私たちは稼ぐことばかりに時間を割くようになり、務めは、税金を払うことで国に任せっきりにしてみました。ところが、バブルが崩壊し、日本経済は停滞。税収も減り、国はしだいに「務め」を放棄。私たち自身が務めを果たさなければ、社会が成り立たなくなってきました。政治不信も相まって、「だったら、自分たちでやろうよ。社会貢献」という空気が世の中に満ちてきたのです。私たちは今、そんな時代に生きています。社会を眺め、街に出たら、「社会貢献への扉」があちこちに用意されていることに気づくでしょう。たとえば、「Jubilee」プログラムや「ピンクリボン」といった、商品の購入金額の一部がNPOの活動に寄付される「コーズ・マーケティング」による商品を買うことも、社会貢献の扉を開くこと。ブラッディなジュエリーは買わないというのも社会貢献だし、子育てをすることで見えてくる学校や地域社会の課題、それを夫婦で語り合えば、扉のノブに手をかけたも同然です。昨年末、話題になった「タイガーマスク現象」は、扉を大きく開けました。児童養護施設への関心が高まったことで、厚生労働省が児童養護施設の職員増員の検討を始めたのです。たった数百人の寄付行為によって、法律が変わろうとしているのです。さらに今、国会で議論されている「新寄付税制」の法案が通過すれば、社会貢献の動きに大きな弾みがつくでしょう。欧米並みの税額控除が実現し、寄付と税金が同等の価値を持つ社会になるのです。さあ、それぞれの社会貢献の扉を開いて、「世の中って、意外に変わるもんだね」という喜びを実感しましょう。それが、私たちの務めなのですから。

## 駒崎弘樹

フローレンス代表／社会起業家

こまざき ひろき ●1979年生まれ。99年慶應義塾大学総合政策学部入学。

在学中に学生ITベンチャー経営者として様々な技術を事業化。

同大卒業後、ITベンチャーを共同経営者に譲渡し、NPO法人フローレンスを設立。

病児保育・病後保育に取り組み。2010年10月よりNHK中央審議会委員。

12月より内閣府「新しい公共」専門調査会推進委員に任命される。著書に「社会を変える」お金の使い方(英治出版)など。

<http://www.florance.or.jp/>